

# 地域再生への 手段に活用を

地域NIEの狙いはどこにあるのか、京都教育大の平石隆敏教授に聞いた。(長田真由美)

## 新聞と、これから

「地域NIE」という言葉を聞く機会が増えました。新聞を通して、地域コミュニティを再生するというのが狙いがあります。もともと先生が学校で取り組んできたNIEのノウハウは、地域でも活用できます。高齢社会になり、特に都市部は人々の集まる力が薄れてきました。高度経済成長期にできたニュータウンも高齢化している。そういうときに、新聞を手掛かりに、集まって話をするといった仕掛けができるのではない

かと思います。例えば、最近よく耳にする「まわしよみ新聞」。自分たちで記事を選んで、その記事について話をするというスタイルです。その話し合いから地域の課題を見つける。最終的には解決策を探るところまでできると思います。どんな場所でも取り組めばいいでしょうか。まずは公民館や図書館。大事なのは複数の新聞を用意することです。一般家庭では購読したとしても一紙が多い。

今この時代、各紙がスタンスをはっきり打ち出してきています。どの新聞を購読しているかで、見える世界が違ってきます。そういう意味では図書館が一番取り組みやすい。学校図書館もそうだが、今は図書館の機能が変わってきている。単に本を読むだけでなく、情報学習センターになっている。地域NIEにも取り組みやすいのではないのでしょうか。

## 学校との連携で相乗効果

「NIEは学校でやるもの」という声もあります。NIEのEはEducationのE。生涯学習のEと捉えられたいでしょう。地域NIEの良さは、いろんな世代が交流することです。異なる世代が交流することで、いろいろな意見に触れることができ、面白く、理想を言えば、学校と地域NIEが連携できると思います。次期学習指導要領のローガンの一つに、「社会に開かれた教育課程」があります。学校は、何を目指してどんな教育をしていくのか、地域と共有し、地域も学校の取り組みをサポートします。学校教育が地域に開かれ、地域の人材や活動と結び付くのが望ましいです。地域の人と新聞を囲んで語り合うことは、子どもたちにとっても学校とは違った多様な考え方に触れることになりそうです。

### 京都教育大・平石隆敏教授に聞く

「複数紙が置いてある図書館は地域NIEに取り組みやすい」と話す平石隆敏教授＝京都市内で



ひらいし・たかとし 京都教育大教育学部教授。倫理学の視点からメディアやNIEのあり方を考察する。日本NIE学会常任理事、研究委員長。

課題は、地域NIEに取り組む人材をどうやって育てるか。話が行き詰まったら、別の視点を投げかけたり、整理したりできる人材がほしい。今は自治体でも、まちづくりのコーディネーターを養成するような動きが増えていますが、人材が全くないわけではない。こうした人たちと協力しながら、地域NIEを深めていけるといいですね。

## 狙うぞ 特ダネ!?

たなかひさし



政治家の失言や暴言を記事で取り上げると、支持者の方から「記事にする話か」とお叱りを受けることがあります。ただ、政治家の勉強不足

### 失言や暴言見過ごせない

や、差別意識による人権侵害、誤った認識などに基づく発言を見逃すことはできません。こうした発言を主権者である読者に示すことも、新聞社の大切な仕事なのです。

### 新聞とわたし

放送部でドキュメンタリー番組を作っている中で、ネタ探しをするためにも新聞を読んでいます。中でも、身近な話題が多い地方版が気に入っています。

地元にいる面白い人や出来事をネタ帳に書きと

### 地方版で番組制作のネタ探し

新聞の見出しのようなドキュメンタリー番組のタイトルを付けられるようになります。三重県松阪高二年



栗山尚子さん